



今回の訪問先
胃腸科外科 森医院さん
【八幡東区】

糖尿病は生活習慣病の代表的な病気ですが、放置しておくくと神経障害、血管障害、腎障害などを起こし、さらに進行すると手足の切断が余儀なくされる糖尿病性壊疽や失明につながる恐ろしい病気です。八幡東区中央町にある“胃腸科外科 森医院”さんを訪問し、院長の森栄秀先生にお話をお伺いしました。

聞き手: “胃腸科外科 森医院”さんの特色についてお聞かせください。

森先生: 当院は昭和52年に開業しました。私の専門領域は胃腸科、外科であり、以前は当院で手術も行っていましたが、今はメスを捨て、地域のホームドクター的役割を果たしています。開業以来の患者さんも多く、風邪や腹痛、生活習慣病、消化器疾患や軽度の外傷など幅広く診ています。

診療に際しては、患者さんを第一と考え、できるだけ最新機器や最新の治療法を取り入れています。例えば「胃カメラの検査は苦しい」という患者さんの声があったので、苦痛を軽減できるよう経鼻式内視鏡（鼻からの胃カメラ）を導入しました。最近では「禁煙を成功させたい」という患者さんの声がありますので、禁煙外来を設置したいと考えています。

聞き手: こちらでは、どのような検査が受けられますか？

森先生: 上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）、X線検査、超音波検査、肺機能検査、心電図検査、血液検査、骨粗鬆症診断のための骨塩定量（骨密度）検査などが可能です。

聞き手: どのような疾病の患者さんが多く受診されていますか？

森先生: この辺りは、古い街なので、ご高齢の方が多く、糖尿病をはじめ生活習慣病の患者さんが多いです。

聞き手: 糖尿病について教えてください。

森先生: 糖尿病は尿に糖分が出る病気と思っている方が意外と多いですが、それは症状の一つに過ぎません。糖尿病は血液中の糖分が多くなってしまい起こる病気です。糖尿病は大きく二つの型に分けられます。

ひとつは1型糖尿病で、体内でインスリンと呼ばれるホルモンが正常に分泌されないために起こります。インスリンは、血液中のブドウ糖が肝臓や脂肪、筋肉などの細胞に運び込まれ、その細胞で利用されるのを助ける、血糖低下作用をもつホルモンです。糖尿病全体の約10%が1型糖尿病と言われており、インスリン注射を行います。

もう一方は2型糖尿病と呼ばれています。それは過食や運動不足による肥満の方に多いタイプで、インスリンは分泌されていますが、体の必要量に対してインスリンが不足したり、インスリン作用が効かなくなったりすることで起こります。

聞き手: 2型糖尿病はどのように治療しますか？

森先生: それぞれの患者さんの病因や状態によって治療方法が異なりますが、生活習慣が原因の患者さんの治療は、食事療法と運動療法が主体となります。必要に応じてインスリンや治療薬を処方します。治療薬は、体内のインスリン分泌を増加させるものや食後のブドウ糖吸収を妨げ、過血糖を防ぐものなど新しいタイプのものが次々に開発されてきており、治療方法も多様化しています。

聞き手: 本日はどうも有難うございました。

森先生: これからも、地域のホームドクターとして患者さんを第一と考え、より良い医療を提供できるように頑張ります。本日の取材お疲れ様でした。



森 栄秀 先生
 麻酔科認定医



胃腸科外科 森医院

北九州市八幡東区中央2-2-6 TEL: 093-662-2126

診療科目: 胃腸内科・外科

診療時間: 月火木金 9:00~13:00, 14:00~18:00, 水曜 9:00~13:00,
 土曜 9:00~12:00, 土土午後・日曜・祝日休診

